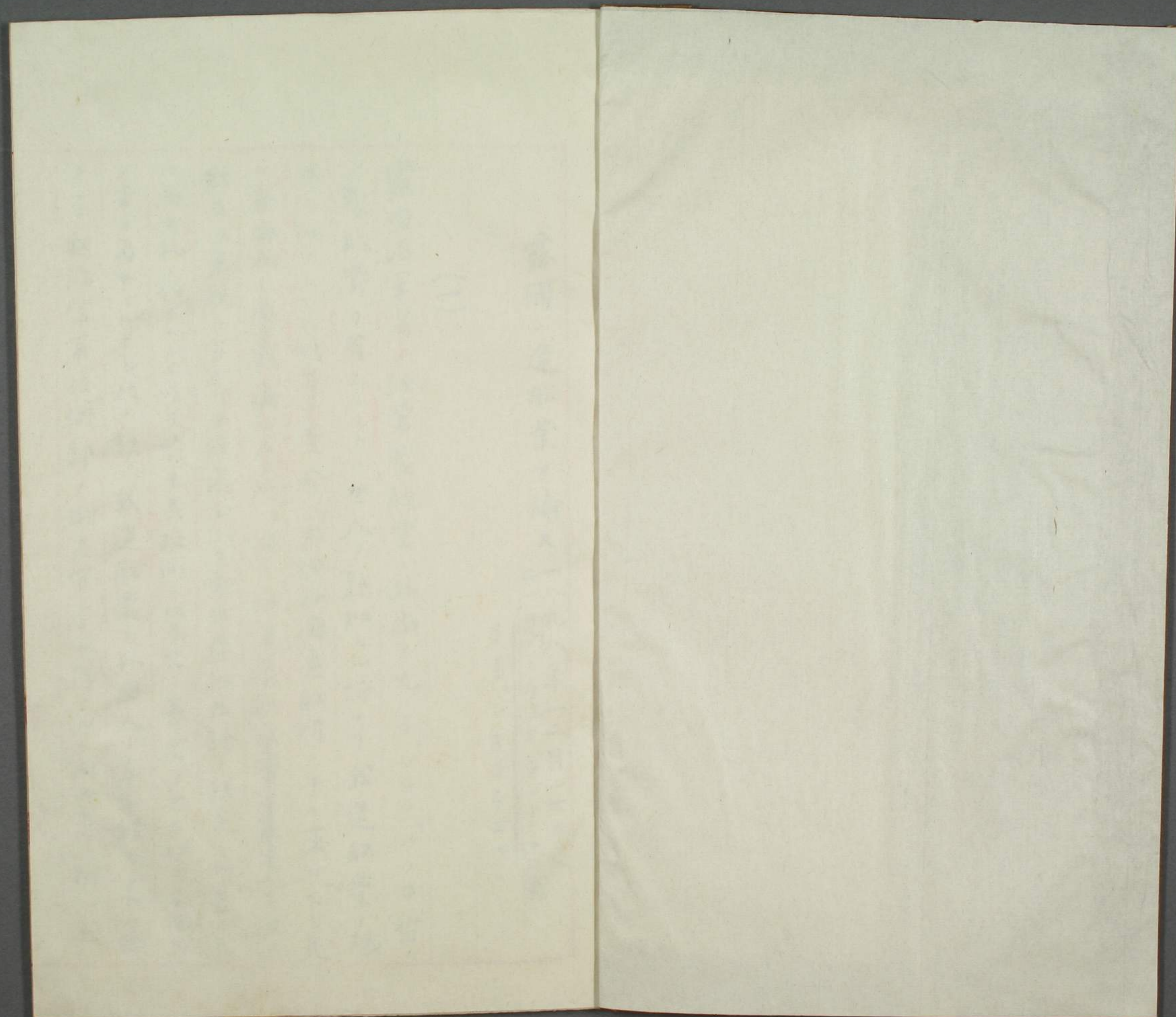




露國ノ造船業ヲ論ス

特別
14
2090
(7)





露國ノ造船業ヲ論ス

一八九八年一月一七日及
二日ハウオエ、ウレ、ミヤ所載

イ、レオンチエフ

(一)

露國海軍省ハ經常製艦費ノ外尚ホ九〇〇、〇〇〇、〇〇〇留
 ノ製艦費ヲ有スルコトハ世人ノ熟知スル所ナリ我造船業ノ現
 況ヲ以テスレハ此等ノ費金ハ大抵外國造船所ノ手ニ落ツト是
 以テ露國ノ慶額痛心スル所、殊ニ海軍造船技師ノ最モ學成ノ
 創立以來既ニ百年ヲ經過シタル今日造船技師ノ缺乏セル甚キ
 ニ尚ホ此ノ如クナルヲ以テ苟モ其技術ヲ以テ世ニ立ツ者ハ之ヲ以テ不面目
 ノ事ト為サルナリ此ノ如ク我造船業ノ外國人ノ手ニ移リタルハ職
 トシテ我海軍省技術部ノ制其宜シキヲ得カニニ由ルナリ抑、我

海軍省

国土ノ廣大ニシテ邊疆ヲ海ニ視萬里ヲ隔ツル國ニ在リテハ
造船ノ事軍事上高上之點ニ最モ注意ノ問題アリ是も大敵也
意ヲ此ニ用アルモノニ非ズ以テナリ用ヒ南工局中ニ有識ノ士ヲ集
現據シテ高工局内ニ一專課ヲ置キ以テ專ラ商船増加ヲ図ラン
ムルコト此ニ二年ナリ故ニ余以テ謂ヘラリ此ニ我國商船業ノ現状
ヲ説ク必スシテ没趣味ノ事ニアラハルヘキカ
我海軍ノ造船艦士及機關官ハ格倫斯達士ノニコライノ一世
皇高海軍學校ニ送テ始メ其學ヲ授テ後テ其細得俾ニ海軍
ニ送テ其初歩ハ中級艦士ノ程度ニ至ラシメテ乃チニコライノ三世
艦士送テハ軍艦船機関ノ細長送テ俾ニ艦士ノ商船ノ送官艦ニ

助ニ

送ラハ其修繕ノ事ニ從事ス然ルニ我國ノ造船業ハ甚道途遠シ
シテ或點ニ送テハ退歩セル所ナキニアラス且レ山堂ニハ最大多ク其
コナランヤ而シテ其田テ業ル所ヲ求ムルニ造船業ニ進脱セル者高ニ
致シテ拘束シテ其業ヲ干渉スルニ在リ人々技師ノ長官トシテ其
稔スル者ハ其在執スル軍艦ノ司令官ニシテ皆海軍中人中より出
身也作選任ニシテ者三四年間在任スレバ則チ他ニ榮擢ヌ
斯ル一時ノ長官ニシテ亦其門家トシテ其者ニシテ造船ノ事
ヲ修習知レシム其後送テ望ムル山堂ニハハケンヤ然ルニ例ニ波羅
的ノ功ノ如キ其業務ノ状況ヲ考エルニ同一ノ法ヲ以テ異リ
ニシテ其事務トシテハ其成績ノ軒昂較著ナルヲ知ルル必ス
其日ニ勤キニアラザンナリ凡レ此ノ功ハ官設ニ係ルト雖モ我海

海

軍ノ技術等私設會社ノ主義ニ依リテ管理シ現ニ造船ノ技術
官々内官造船ノ墮ラトナリ本工場の多クあり海軍者より要
求ヲ派出シ少クハ以テ之カ長トナレシ以テ業務努力ヲ墮
ルニ墮ルニ墮ル此ノ如ク稱之シタルハ故エム、イ、カ、ジ、ー、ノ、才、能、志
精力ニ昂昂ニ傑出シタル信意ニシテ氏ハ我々技師等ノ其工
的工巧ヲシテ其作業ノ巧拙ハ之ニ依ラズ本位中ノ迅速ナル所
ニ依ラズ優ニ外國有ルノ工巧ト競争スルヲ得ルニ至ラシクナリ石
助ル成績ヲ得ルマテハ當時ノ海軍者易クトナレテ其
其學ヲコト一再ナラズ仰テ海軍者易ク必スシモ此此此工
ヲ建設造船所トシテ純然セント要シタルカジールハ今ノ制

ニ依リ造船的工場ヲ管理スルハ官設造船所ヨリモ其作業
良船ヲ建設スルヲ得ヘク其作業モ一層迅速ニシテ且ツ修業事
失費更ニ少ク新へ海軍者易クハ建設工場ニ於テ建設工事
ニ関シ何等ノ煩雜モナク又煩雜ニモ依ラズ其直接ニオキタルノ際ヲ
受ル、ヲ得ヘキコトヲ事實際ニ於テ著シテ示セリカジール此
ノ如クニシテ其工場ノ相立ツル庇護シ造船的工場ノ管理方々實
際其結果甚顯著ナルカ存ニシテ官設造船所ニ適用スヘキコト
主張セリ若シ其時此廠ニシテ採用セラレ得タルニハ今日重
ノ場合ニ於テハ「伊波」新「鐵工」等ノ各社之工場ニ助カフ所
九〇〇、〇〇〇、〇〇〇ノ留ノ官艦ヲ爲す内ニ於テ建設スルヲ得タリシ
ナランニ事ト此ニ學ハカリシハ頗ル概略ニヘシトス

常設橋ヨリ上流ニ去ルニ利ヲ沿岸ノ造船所ヲ得ルニ便ナリト云
 スヘキ事アリ即チ新ニ建造申ノトロイッキ橋ニハ開闢部ヲ設ケ
 長サ六〇〇呎以内、幅ハ〇呎以内ノ船舶ノ通航ニ差支ナキカラシム
 要スル所ノ開闢部ヲ以テスレハリテイヌイ橋ノ建造ノ際ニハ此點ヲ
 勿論ニ付セシメテ其現狀ヲ以テシテハ近世ノ大船トテ通過ス
 ル能ハサルハ是ヲ以テ此橋ヨリ上流ニハ大ナル造船所ヲ設クルニ由
 ナシ是レ我造船業ノタメニ石モ惜ムヘキ事トス
 官設造船所ノ現行估業方ノ缺點ハラ松葉キモニ此造船所ニ
 往テ軍港長柱師ヲ遣返シ之ニ造船ノ事ヲ委任スルノシテ是レ造船
 船師師長ヨリ製建造ノ責ヲ負フト雖モ何事ヲモ專断スルノ權利ナシ
 總テ軍港長ノ指揮ニ隷スルヘカラス而シテ軍港長ハ建造者

二諮ラス獨断ヲ以テ注文ヲ為シ之ハ契約者ヲ選定スル能ハズトシテ
 申入札價格ノ最低ナル者ヲ採ルカ否ニ関シテ廣クハ短慮ト云ヘル事
 然レモ此種ノ事請負ニ生ズルニ至ルルニ至リ工率ヲ急キルル材料ヲ
 不慮ニ用ヒテ之ヲ用ヒタル結果ニ至リテハ此種ノ事請負ニ至ルル
 トモ其要一ニ建造者ニ帰スルナリ又職工ノ賃銀ノ如キ假令
 造船家ノ派遣既ニ有致ノ職工ニ仕掛フ分ナリトモ軍港
 長ノ判断ヲ以テ現定ル所ニ至ルニ至リ許サズニ作業ノ
 條件ハ建造者ノ責任ニ在リテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ
 ナルヘカラス而シテ其指揮ニ依リテ代價ハ大抵減削セラ
 ルカ致ニ職工ノ組合賃銀ヲモ得ル能ハサルコト往々見ラレテ之ヲ
 リ故ニ此種ノ事請負ハ如何ニシテ此難境ヲ脱スルノ方法ヲ講

ハ工ヲ洗滌ノ一原因ニシテ初官設造船所ニ於テ建造スル
船舶ハ五六年ヲ経テセリレハ竣工セテ外國ニ於テ建造ス
ルモノハ二三十年ニシテ完成スルモノ職トシテ与テ是レ也ル又
造船業ハ決シテ製造業ト同クニ添スヘカク一舟艦ヲ建造
スルニ種々種々ノ事必サラズニ船隻建造ノ工ヲ以テ
スルニ三年制セラル、所アリ工事ハ實際千人乃至千四百
人ヲ使用スルニ止マル若シ千人乃至千四百人ヲ使用スルトキハ該
工期ハ二三倍早ク也

其二

海軍省・造船事業ノ不整頓ナル點ハ西專科高位ヲ
占ムル技師即チ造船技師及造船技師ヲシテ實際行政事務
ニ于テモシロサレニ在リ彼等儼然トシテ技師ト稱スト雖モ實
ハ海軍中將ノ職長ナル海軍技術委員會造船技師部ノ一員
ニ過キス其職務ハ設計ヲ立案シヌク之ヲ検査シ且ツ委員會
ノ總會ハ列席スルニ止リ實際工程ノ事ハ其の常テ公知セサル所
ナリ例セハ技師等ハ技師ノ數若干ナルヲ知ラズ各港ニ於テ技師ヲ
要スルヨリ適于ナルヲ知ラズ必要ノ工事ヲ起スニ此等ノ港ノ
如何ナル官カヲ備フルカヲ知ラズ又我國ノ造船業及造船業
ヲ發展スルニ以テ母ニ外國ニ注文セカンヲ得サルカ如キ缺點ヲ除
クンタマハ何れニモハ一ツナルカヲ知ラズサルナリ

技監ハ毎ニ我國ノ軍港及工場ヲ巡視スルヲ要スル時トシテ
ハ外國ノ軍港及工場ヲモ迴覧スルヲ以テ所詔技術上ノ
修業ヲ為スヘクシテ常ニ大造船所ノ内ニ塾居スヘカラス
技術ハ活物ナリ技監ハ宜シク技ヲ監スヘシ聲ニ紙上ノ空
事ニ從ヒテ一處ニ安居スヘカラス
海軍省ニ非ズハ造船造機ノ本部ヲ設置セス各港各別
ニ其事ヲ管知セシム而モ其事任ニ當ル者ハ技師ニアラス
シテ一時任命セラレタル軍人ニ任テ今日軍港ノ管理ニ任スル
モ剛口ハ云リテ艦隊ノ司令官トナリ其常テ差遣シ先軍港
トハ永ク關係ヲ絶ツ不^ナ得^ル我造船業ノ進行ニ秩序ナク統一
ナモ實ハ之カタメニ外ナラスト^モ其支離トナリ訛雜ニ流ル^ル自^然

